

病虫害防除所情報第6号

令和6年9月6日
山梨県病虫害防除所

【ハスモンヨトウの防除について】

[発生の状況と今後の予想]

- (1) 平坦地の夏秋ナスほ場（甲府市、笛吹市）におけるフェロモントラップの成虫誘殺数は平年に比べ多く、8月の1か月間で平年の2.5~3.6倍となっている（図1）。
- (2) 甲府盆地において、9月初頭までにサトイモの白変葉やブドウの葉の食害が認められている。
- (3) 気象庁の1か月予報（9月5日発表）では、向こう1か月の気温は高く、降水量はほぼ平年並の見込みであるため、ハスモンヨトウの発生に好適な条件が続き、幼虫による被害が拡大すると予想される。
- (4) ハスモンヨトウの幼虫は広食性害虫である。通常は被害の無い作目でも、多発時には被害発生が懸念される。

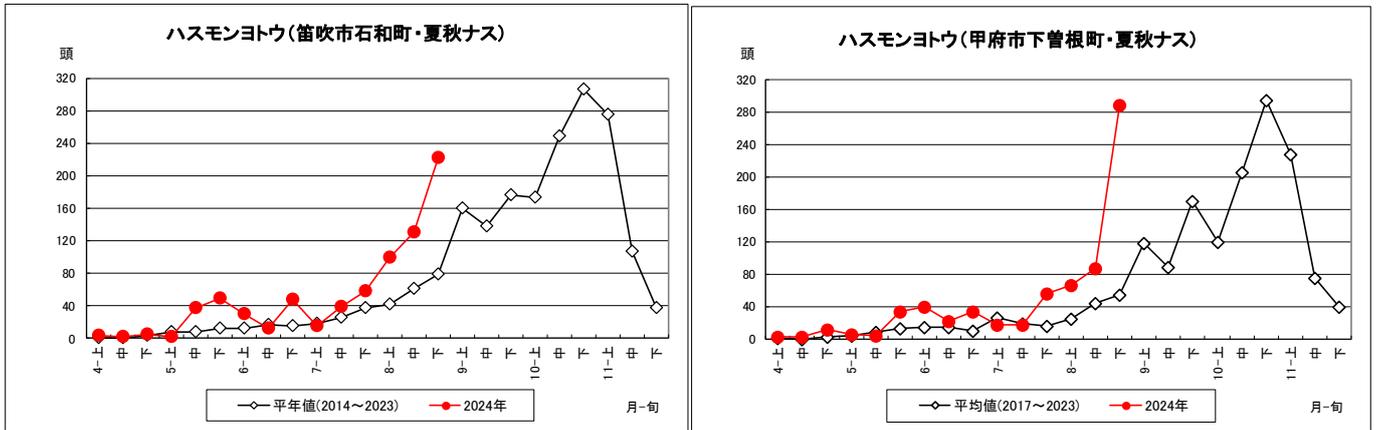


図1 フェロモントラップによるハスモンヨトウの誘殺状況



図2 ハスモンヨトウの形態と被害

【防除対策】

1 耕種的防除、物理的防除

- ・本種は広食性で雑草地にも生息するため、ほ場周辺の雑草管理を徹底する。
- ・葉裏をよく観察し、卵塊や若齢幼虫を見つけたら捕殺する。
- ・施設栽培では、開口部に目合い4mm以下の防虫ネットを張り、成虫の侵入を防ぐ。

2 化学的防除

- ・老齢幼虫になると分散し急激に食害量が増大するうえ、薬剤が効きにくくなるため、体長1cm以下の若～中齢幼虫のうちに薬剤防除する。
- ・若齢幼虫は葉裏などに密集していることが多いため、薬液が葉裏や株元に十分かかるよう丁寧に薬剤散布する。
- ・同一系統薬剤の連用は薬剤感受性低下につながるため、異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う（表1）。
- ・農薬の使用にあたっては、最新の登録情報を参照し、適正に使用する。

(<https://pesticide.maff.go.jp/> 農薬登録情報提供システム)

表1 ハスモンヨトウに登録された主な農薬

系統 (RACコード)	農薬名	作物名								
		ナス	トマト	キュウリ	レタス	ハクサイ	ホウレンソウ	イチゴ	サトイモ	ダイズ
1B	エルサン乳剤				○	○	○		○	○
3A	アデオン乳剤								○	
6	アフーム乳剤	○		○	○		○	○		
	アニキ乳剤	○	○	○	○	○	○	○	○	○
11A	ゼンターリ顆粒水和剤	○※1	○※1	○※1	○※1		○※1	○※1	○※1	○※2
	エコマスターBT	○※3	○※3	○※3	○※3	○※3	○※3	○※3	○※3	
15	カスケード乳剤		○		○		○	○		○
22A	トルネードエースDF	○	○		○			○	○	○
22B	アクセルフロアブル	○	○		○	○	○		○	○
28	フェニックス顆粒水和剤	○	○	○	○	○		○	○	○
	プレバソンフロアブル5	○			○	○	○	○	○	○
	ヨーバルフロアブル	○	○	○	○	○	○	○	○	○
30	グレーシア乳剤	○	○	○	○	○		○	○	○
UN	プレオフロアブル	○	○		○		○	○	○	○

※1 野菜類（キャベツ、はくさいを除く）登録、※2 豆類（種実）登録、※3 野菜類登録

※ ラベルに記載されている倍率、使用回数、有効成分の総使用回数、注意事項等を守り、周辺作物や近隣への飛散防止に努める。